

contents

|                   |       |
|-------------------|-------|
| 北斎                | [2~5] |
| イベント報告「マン・レイ」展講演会 | [6]   |
| 友の会だより            | [7]   |
| 所蔵品によるテーマ展のご案内    | [7]   |
| お知らせ              | [8]   |
| 貸館情報              | [8]   |
| 日本まんなか共和国         | [8]   |

〈表紙：葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」(部分) (「北斎」より)〉





# 北 Hokusai 斎

会 期 平成16年

10月8日 **金** ~ 11月7日 **日**

主催・会場 福井県立美術館

共 催 福井新聞社

後 援 NHK福井放送局、FBC福井放送、福井テレビ、FM福井

協 力 葛飾北斎美術館

開館時間 午前9時～午後5時（金曜日は午後8時まで）

※ いずれも入館は閉館30分前まで

休 館 日 10月18日(月)、11月1日(月)

観 覧 料 一般800円、大・高生500円、中・小生300円（30名以上の団体は2割引）

## 講演会 ■ 聴講無料

「北斎一人と作品」 永田 生慈 氏（葛飾北斎美術館長）

10月24日(日) 午後2時より 於講堂

## 関連 事業

当館学芸員によるギャラリートーク ■ 要チケット

10月24日をのぞく毎週日曜日 午後3時より 於展示室



「富嶽三十六景 山下白雨」

当館では10月8日より、江戸後期に活躍した浮世絵師である葛飾北斎の作品を集めた展覧会「北斎」を開催します。

**葛** 飾北斎は今から244年前の宝暦10年(1760)、江戸は本所割下水に生まれました。現在の東京都墨田区の南部、隅田川に接した一角です。生家は川村氏、のち幕府御用鏡師で叔父にあたる中島伊勢の養子になったと伝えられています。幼い頃から絵に興味を持ち、一時貸本屋の小僧として働き、16歳頃からは木版印刷の版木の文字彫りをしていたといわれています。そして数え年19歳のとき、当時人気の浮世絵師である勝川春章に入門しました。北斎は勝川派内ですぐに頭角を現し、翌年には師春章の画号を譲り受けた「春朗」の名で浮世絵界にデビューしました。それから約15年間、北斎は勝川派の絵師として、役者絵や黄表紙の挿絵を中心に、美人画・風俗画などを描いていました。

ところが35歳の頃、北斎は突然勝川派を離脱します。そして琳派の絵師俵屋宗理の名を襲名しました。宗理時代はそれまでの役者絵などからは距離を置き、私製版画である摺物や、当時流行した狂歌に絵を配した狂歌絵本の挿絵、肉筆画の制作に情熱を傾け人々の注目を集めました。また琳派の他にも狩野派や土佐派、洋風画派などを広く学び、30代後半にいたって師春章の影響を脱し、自己の様式を確立しました。そして38歳頃に北斎と改名、以後どの流派にも属することなく独自の道を歩むこととなります。

また、寛政の改革で黄表紙への取り



「葛飾北斎像」 溪斎英泉画

締まりが厳しくなり、それに代わって文化年間(1804~18)から読本が流行すると、北斎はいち早くこれに挿絵を提供しています。荒唐無稽で空想的な内容である読本の世界を、視覚的に伝える挿絵の作業に、北斎はこれまで学



んだ成果と抜群の想像力とでこれにあたりました。そして『椿説弓張月』などの名作を発表、48・9歳頃を中心に、おそよ1400もの挿絵を描くなど、その制作に情熱を傾けました。

50歳を過ぎると北斎の画名はさらに高まり、多くの弟子達が彼の下に集まりました。そして彼らの教育のため、各種絵手本を数多く手がけるようになりました。なかでも森羅万象を描き出



「牡丹に胡蝶」

した「北斎漫画」全15編は、文化11年(1814)から明治11年(1878)にいたるまで出版された彼の画業の総決算ともいえ、その高い芸術性は近代ヨーロッパの画家達にも大きな影響を与えました。

70代前半になると、これまでの経験が風景版画の面で大きく花開きました。「富嶽三十六景」「諸国滝廻り」「千絵の海」など、現在の我々にもなじみ深いシリーズを相次いで発表。また風景以外にも花鳥版画や「百物語」など優れた作品を手掛けました。そして北斎の旺盛な創作意欲は晩年に至っても衰えを見せず、主に肉筆画や絵手本に筆をふるい続けました。

嘉永2年(1849)、多くの弟子が見守るなか北斎は息を引き取りました。数え年90歳の生涯でした。70年にも及ぶ長い浮世絵師生活の中で、彼はおよそ浮世絵のあらゆるジャンルの作品を手がけました。そして何れの作品にも、北斎の溢れるような創造性と優れた描写力による、強烈で個性的世界が繰り広げられています。

\*\*\*\*\*

今回の展覧会では、日本の北斎コレクションではその名を知られる、島根県津和野町にある葛飾北斎美術館の所蔵品から、日本風景版画の傑作として知られる「富嶽三十六景」のうち「神奈川沖浪裏」「凱風快晴」や「北斎漫画」など、青年期から最晩年までの肉筆画・摺物・版画・版本、約200点を展示。生涯を絵とともに生き、浮世絵に独自の世界を拓いた北斎の画業をご紹介します。





「美やこ登里」 享和2年(1802)

隅田川近辺23ヶ所の景観・風俗を詠んだ狂歌に、北斎が全図の挿絵を描いた狂歌絵本。各季節の景観に、面長ですらりとした美人を中心とする人々の姿を、伸びやかで生彩あふれる筆致で叙情豊かに描き出している。北斎が生涯で制作した数ある狂歌絵本のなかでも、最も優れたものの一つ。



「百物語 お岩さん」 天保2・3年頃(1831・32)

百物語とは、蠟燭を百本立て、怪談を一話語るごとに一本消し、百話目が終わると怪異が起こるといふ遊びで、江戸時代後半に流行した。このシリーズは現在5図が確認されており、本図は四谷怪談の「お岩さん」を題材としたもの。破れ提灯をお岩さんに見立てたもので、大胆な構図、とぼけた表情がどこか可笑しさをさそう。



「赤壁の曹操図」 弘化4年(1847)

曹操(115～220)は古代中国三国時代の人物で、魏の国の始祖。図はその曹操が赤壁の戦いの前夜、船上で武器を手に詩を作る場面が描かれる。ゆるぎない構図に鮮烈な色彩と精緻な描写が特徴的。落款から北斎88歳の作品と知られる。北斎最晩年の肉筆画を代表する一点。

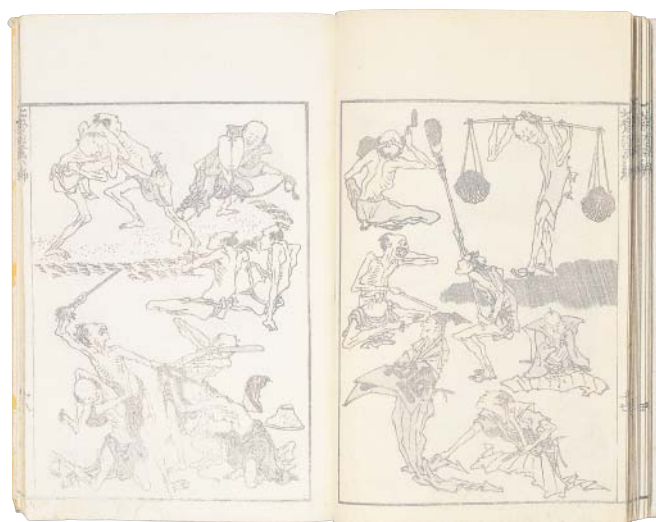




**「富嶽三十六景 凱風快晴」**  
 天保2年(1831)頃  
 富士山を題材とした「富嶽三十六景」は、北斎72歳頃に出版された46図からなるシリーズ。北斎のみならず日本風景版画の傑作として広く内外に知られる。「凱風」とは南風のことで、夏から秋にかけての早朝、朝焼けに染まる富士の雄大な姿を表現している。別名「赤富士」の名で親しまれ、「神奈川沖浪裏」(表紙)、「山下白雨」(2頁)とともに人気が高い。



**「岩井半四郎のかしく」** 安永8年(1779)  
 安永8年(1779)8月に、中村座で上演された「敵討仇名かしく」に取材した役者絵。19歳で勝川春章に師事した翌年、春朗の名で画界にデビューした北斎最初期作の一つ。師春章の影響が強く見られるが、的確な人体描写やていねいな筆致に早くも北斎の才能の程がうかがえる。



**「北斎漫画」** 文化11年(1814)～明治11年(1878)  
 当初は多くの弟子達の手本として制作されたもので、海外では“ホクサイスケッチ”として親しまれる北斎を代表する作品の一つ。全15編、総図数4000にも及び、ありとあらゆる事象を描くその内容は、まさに「絵の百科図典」と呼ぶにふさわしいもの。北斎の対象に対する的確で鋭い視点と、優秀なデッサン力が示された作品。

## イベント 報告

マン・レイ展  
「私は謎だ。」

I am an enigma.

講演会

## 「マン・レイの謎を楽しむ」

6月13日(日)

講師：巖谷 國士 氏 (本展監修者・明治学院大学教授)

午後2時～4時 当館講堂にて



■会場風景 ©石原 輝雄

私が、マン・レイと本格的に出会ったのは、1981年のポンピドゥ・センター(パリ)での回顧展であった。同時期にジャクソン・ポロックの大展示も開かれていたが、会場の様子の違いが印象深かった。マン・レイ展では子供を連れた家族が多く、楽しい笑い声が会場にあふれていた。私は常々、マン・レイは4つのVの人であると言ってきた。Voisin(隣の人)、Voir(見る人)、Voyageur(旅する人)、Voler(覗き見る人)。親しみやすく、何かしら近所の人、隣人といった雰囲気は、彼の芸術の大きな魅力の一つである。不思議でユーモラスなオブジェ作品は、特に子供に人気があり、福井でも、是非子供たちにマン・レイの世界に触れて欲しい。

今回の講演会のタイトルは、「マン・レイの謎を楽しむ」だが、展示会のタイトルには「私は謎だ。」という彼が語った言葉が使われている。ならば、この講演のテーマは、「マン・レイの私を楽しむ」ということになりはしないか。実際「私」というテーマはマン・レイ芸術の核をなしている。若くして本名、エマニュエル・ラドニツキーを捨て、Man Ray(光線・人間)なる奇妙な名前を発明した彼は、強い意志でもう一つの自分をつくり上げ、自分を謎にしようとしたのではなからうか。

展示会場の最初に、彼のセルフポートレート写真ばかりを集めたコーナーがあるが、そこにある1枚は、他の写真と全く違った印象を与える。一説には、アルフレ

ッド・スティーグリッツが撮ったものともいわれるこの1枚には、素顔のマン・レイ、彼の内面がとらえられている。この1枚と比べると、他の写真は人工的で、演出された仮面のように見えてくる。

マン・レイの作品には、いつも自伝的な要素がちりばめられているが、彼は決して作品に自身の内面や感情をぶつけることはしなかった。常に「私」をオブジェクト(客観・物体)としたのだ。表現行為が主観からどのように客観に移りゆくかは、20世紀芸術の最大のテーマともいえる。マン・レイの親しみやすい作品には、同時に現代芸術の根本がある。

(本文は講演の一部を福井県立美術館が編集してまとめたものです)



巖谷國士氏によるレクチャー ©福井新聞社

## 【講演会講師の略歴】

巖谷 國士 (いわや・くにお)

1943年生まれ。明治学院大学文学部教授(仏文学)。東京大学文学部仏語仏文学科卒業、同大学院修士課程修了。シュルレアリスム研究の第一人者。主な著書に、『澁澤龍彦考』(河出書房新社)、『ナジャ論』(白水社)、『宇宙模型としての書物』(青土社)、『ヨーロッパの不思議な町』(筑摩書房)、『反ユートピアの旅』(紀伊國屋書店)、『シュルレアリスムとは何か』(メタローク)など。



美術館友の会では、会員の方を対象として各種実技講座を開催しています。今回は現在受講中のお二方に内容について寄稿していただきました。

## 魔法のひと筆で動き出す

水彩画講座 H・H



私は、スケッチブックを抱えて研修棟に入りに出ている方々「絵を描く人」に憧れていました。でも、「私には無理無理。第一、不器用だし、その上、

こんなに時間に追われて暮らしているんだもの。」と自分に言いかせてきたのです。ところが、今年になって、初めてこの夢が叶いました。

さて、いよいよ5月11日、水彩画講座のスタートです。“新入生”とは名ばかりのK氏やM夫人。器用で繊細なタッチで描かれている作品は、すでに“達人”の域です。ましてや1回生や2回生の方々は……。ところがこの私は、名の如く初心者“新入生”です。「大丈夫かしら。皆さんについていけるかしら。」と不安ばかりの初日でした。でも不思議。研修日を迎える度に、心が晴れやかで楽しい3時間となるのです。

「先生、先生。」と呼び求める生徒の声に、先生は、「はい。」「はい。」と机間指導。すると、どうでしょう、作品の中のモデル嬢がきらり。あちらからもこちらからも、みんな違った人物になって輝き出します。私の稚拙な作品、ぬいぐるみのくまさんも、おやおや、動き出しました。

北嶋先生の魔法のひと筆で、それぞれの作品が息吹き、描

き手の顔がほっとほころびます。と、その瞬間、明るく温かい空気が流れ、教室中に広がります。なんとまあ、素晴らしい世界でしょう。

また、鉛筆の削り方から始まり、フリーハンドの線引き、光と影の見方などなど、私には、すべてが新鮮で大きな学びです。

このような楽しい教室を創り出して下さった北嶋先生、そして研修生の皆様に、心よりお礼申し上げます。

## 彫刻講座を受講して

彫刻講座 南澤 正之進



初めて木彫講座に参加させていただいて、手取り足取り文字どおりのように先生にご指導願って、木彫の一端を垣間みたような思いでした。

ありがとうございました。

同じ木彫でも、芸術性と工芸的なものを改めて思い知り、技術的には勿論、心構えにもそれなりの取り組み方が必要と思いました。

これからは時間がある限り、講座で学んだことを念頭において、彫刻刀を持っていきたいと思っています。

## 所蔵品によるテーマ展

# ピカソ、ミロ、ドーミエ — ヨーロッパの版画 —

平成16年10月8日(金)～11月8日(月)



パブロ・ピカソ「画家とモデル」

「ピカソ、ミロ、ドーミエ — ヨーロッパの版画 —」では、次々とスタイルを変えたスペインの画家パブロ・ピカソが晩年に制作した「画家とモデル」や、オートマチスムの影響がみられるホアン・ミロの「二人の友達」、フランスで活躍した風刺版画家オレ・ドーミエの「ググストおじさんとママがね(表情のクロッキー)」等、15世紀から20世紀までの様々な傾向を持つ西洋版画をご紹介します。



ホアン・ミロ「二人の友達」

# お知らせ

## <10月～`05年2月の休館日について>

展示替え・年末年始・館内メンテナンス等のため、

10/4(月)～6(水)、18(月)、11/1(月)、9(火)・10(水)、15(月)～18(木)、29(月)・30(火)、  
12/27(月)、29(水)～1/2(日)、11(火)～13(木)、2/14(月)

は休館とさせていただきますのでご了承下さい。

### 貸館情報

|             |                            |             |                          |
|-------------|----------------------------|-------------|--------------------------|
| 9/30～10/3   | 第54回 福井書法展                 | 12/2～12/5   | 第36回 福井県教職員美術展           |
| 10/7～10/11  | キャンノクラブ福井支部 第4回写真展         | 12/2～12/5   | 第20回 記念琢の会洋画展            |
| 10/8～10/11  | 第23回 愿泉書道展                 | 12/9～12/12  | 第54回 福井県勤労者美術展           |
| 10/13～10/17 | 福井大学美術科 大学生・OB・OG・有志展      | 12/9～12/12  | 全国大学・高専卒業設計展示会           |
| 10/13～10/17 | yeyeの会展                    | 12/9～12/12  | 新彫会彫刻展                   |
| 10/20～10/25 | 第7回 フォトグループ・アイ 12人写真展      | 12/15～12/19 | 第31回 悟仙社墨彩展              |
| 10/21～10/24 | 第40回記念 福井造形展               | 12/15～12/19 | 創作人形教室展                  |
| 10/26～10/31 | 盆出省個展                      | 1/14～1/16   | 書勢会会員展・学童読書展             |
| 10/27～10/31 | 佐々木孝生洋画展                   | 2/11～2/13   | 第25回 日本墨書会展              |
| 11/3～11/7   | 第18回 美浜美術展                 | 2/11～2/13   | 科学技術高校テクスタイル デザイン科卒業制作展  |
| 11/3～11/7   | 日本モウ協会福井支部20周年 モウ・刺繍作品展    | 2/18～2/20   | 福井高等学校芸術科アートデザインコース卒業制作展 |
| 11/11～11/14 | 福井県高等学校芸術祭 美術・書道・写真・新聞展    | 2/22～2/27   | `05毎日現代書北陸代表作家展          |
| 11/19～11/28 | プシ国民文化祭美術展 日本画・洋画・書部門(共催展) | 2/25～2/27   | 福井大学書道部卒業制作展             |
| 12/1～12/5   | 寺澤晃司写真展「麗しき山稜」             |             |                          |

### 広報板

## 日本まんなか共和国

日本の東西文化の境界にある四県(岐阜、三重、滋賀、福井)が連携し、より効果的な文化活動を行うため、先進的な「日本まんなか共和国」の創造を目指しています。

### 滋賀県立近代美術館

大津市瀬田南大萱町1740-1 TEL:077-543-2111

#### YES オノ・ヨーコ 10月2日(土)～12月12日(日)



「カット・ピース」1965年 作家蔵  
Photo by Minoru Nizuma,  
Courtesy LENONO PHOTO ARCHIVE,  
New York (C) YOKO ONO

現代美術作家オノ・ヨーコの日本で初めての回顧展。初期のインストラクション絵画や繊細なオブジェ、近年の巨大なインスタレーションや、映像作品、夫ジョン・レノンとともに行ったパフォーマンスの記録等、その活動の軌跡を約130点の作品で紹介。

一般1,000円(800円)/高大生800円(600円)/小中生600円(400円)  
※ 括弧内は、前売りおよび20名以上の団体料金

#### 滋賀の現代作家展3 小林敬生 1月5日(水)～2月13日(日)



滋賀県ゆかりの優れた現代作家を紹介する企画の第3回。今回は木口木版の第一人者小林敬生(1944～)を取り上げ、高層ビルを背景に魚、鳥、動植物が繰り広げる不思議な世界を紹介する。

### 岐阜県美術館

岐阜市宇佐4-1-22 TEL:058-271-1313

#### 熊谷守一寄贈作品資料展 9月17日(金)～10月31日(日)



熊谷守一「獅巻」

一般700円(600円)/高大生500円(400円)/小中生300円(200円)  
※ 括弧内は、20名以上の団体料金

岐阜県歴史資料館との共同企画で、両館に新たに寄贈された郷土ゆかりの画家・熊谷守一の主な作品および資料をご紹介します。

#### 岐阜県クラフト・デザイン・ミュージアム企画展 イサム・ノグチ あかり

彫刻、造園、インテリアデザイン等々多彩な才能を発揮した世界的な芸術家イサム・ノグチのライフワークのひとつ、和紙と光の彫刻「あかり」を紹介します。

「熊谷守一寄贈作品資料展」と共通会期  
「熊谷守一寄贈作品資料展」と共通料金

岐阜県美術館は、  
2004年11月～2005年3月まで  
空調工事のため休館します。

### 三重県立美術館

津市大谷町11 TEL:059-227-2100

#### 20世紀美術にみる人間展 10月23日(土)～12月12日(日)

本展は、三重県立美術館、愛知県美術館、岐阜県美術館のコレクションから、19～20世紀の西洋と日本の人間を主題とする絵画と彫刻約100点を選び、近・現代美術の諸相を展望するとともに、21世紀という新しい時代の中で人間が人間を表現する意味を改めて考察しようとするものです。



「人生は軽いなり(黄金の騎士)」  
1903年  
愛知県美術館蔵

一般800円(600円)/高大生600円(450円)/小中生400円(250円)  
※ 括弧内は、20名以上の団体料金

#### 三重の子どもたち展 はっしん!今...わたし 2005年1月4日(火)～1月30日(日)

入場  
無料

三重県内の3歳児から中学生までの子どもたちの造形作品を展示・紹介します。

#### 吉本作次展

2005年1月15日(土)～2月20日(日)

入場  
無料

三重ゆかりの若手から中堅作家の現況を紹介し、今後の活躍を期待する目的で開催するシリーズの一環として、桑名在住の吉本作次(1959～)の仕事を紹介いたします。